

朝の楽しみ

西南風



給食が始まって3週間目になりました。1年生も少しずつ慣れてきましたね。そんな姿は昼の楽しみ。

私は、学校の朝が大好きです。今まで勤務した学校（中学校）では、「部活の朝練だ」「ボランティアだ」「あいさつ運動だ」「花壇の手入れだ」、などと言っては年がら年中早朝から生徒を登校させて活動を行い、朝の活気を味わってきました。

三月に卒業していった中一の子どもたちと登校時に出会いますが、今は体操服登校をしています。体育大会の全体練習が始まっているからです。思い起こせば今の時期は、早朝から体育大会の自主練をしていました。

私は、「勝ちたいんや！」と星野仙一ばりに言いながら、ムカデ競走などはまさに「血のにじむような」練習をさせたものです。子どもは何度も転倒し、ひもを結ぶ足首はアザになり、身体のあちこちが痛みます。それでも練習を続けました。生徒も燃えていたのです。一方で練習が嫌な生徒もいました。しかし、そんな生徒もいつしか仲間の情熱にほだされて、嫌だけど疲れた身体にムチ打って早起きをしていたのだと思います。朝練を「サボる」生徒はだんだん減っていきます。これは二十年ほど前の話ですが、そのころは周りにそんな「勝ちたい担任と生徒」が多かったような気がします。今でもみんな勝ちたいし負けたくはないでしょうが、それが度を越していたのです。勝利を目指すことは悪いことではありませんが、勝利こそ学級経営の正解と考えていたのかもしれませんが、もちろん頑張ったからといって勝つ保証はなく、負けることも少なくありません。負けたときの疲労感や悔しさを押し殺しつつ、この負けを子どもたちとう受け止めていこうと考えるながら教室に行くと、子どもたちは負けを引きずることなく、爽やかに切り替えているのです。私は「え？さっき悔しくて泣いてたよね？」と戸惑いつつも、すでに切り替えている子どもの姿に学び、逆に元気づけられることが多かったです。いつまでも切り替えられないのは私。だいたいがそうでした。保護者の皆さまの中にも、そんな中学校時代の経験をお持ちの三十歳代の方がおられると思います。その節は、大変お世話になりました。しかし、そうした激しい競争によって子どもも教師も家庭も疲れ、今は早朝自主練に時間制限したり禁止にしている中学校が多いようです。いつもながら話がそれましたが、とにかく学校は朝から活気がなきやイカンとっております。そして、朝、

から活気のある学校がいい学校だと思っております。つまりは、だから朝からじっとしてられないのです。

朝は遅くとも七時半からは活動を始めます。正門か北門での登校指導か、校地内の清掃活動です。前号でお伝えしたようにSPC（西南パーククラブ）が結成されましたので、七時四十五分を過ぎた辺りからメンバーが集まってきて一緒に作業します。現在のメンバー数は先週より更に増えて九一名。百名に到達しそうな勢いです。この子たちが、日々の継続で鍛えられたら、すごいボランティア集団になるでしょう。「すごい！あの子らが来たなら、どんなところもすぐにきれいなちやう！」なんて言われるかもしれないという妄想をしつつ、黙々と作業を進めています。

八時十分を過ぎ、児童が教室に入ると校地内のゴミ拾いを始めます。これは一人で行うため、のんびりキョロキョロと校舎間を縫うように歩き回ります。しかし気は抜けません。一階の教室にいる一・二年生に声をかけられることもしばしばだからです。特に一年三組は油断ありません。できるだけシレッと教室の前を通り過ぎようとしても、必ず誰かが私をめざとく見つけて窓をあけ、「校長先生！おはようございまーす！」

と、何度も何度も絶叫のあいさつをかけてくれるのです。私も大声で返すのですが、音量や笑顔のかがやきは圧倒的にかないません。そして、その後ろでは六年生がうっすらと微笑んで一年生に圧倒される私の様子を見ているのでした。彼らは毎朝いろいろと一年生の世話を焼いてくれているのです。そういえば、今年は高学年の児童に手を引かれて登校してくる一年生の姿をよく見ます。また、ランドセルを持ってもらっていることもあります。一年生の歩みに合わせて後ろを振り返りつつ、非常にゆっくりとしたペースの登校班もあります。上の学年としての覚悟と我慢が伝わってきます。そんな光景を見るのはとても幸せです。登校班がある西南小ならではの思いです。

西南小の朝の活気に毎日元気をもらいます。だから、毎朝のルーティンが苦になりません。初夏を迎えて植物がどんどん元気になり、草ボーボーの箇所も増えてきました。そんなことさえも、草刈りの大変さより朝からみんな活動できる楽しみに感じるので。